

06 滞納

滞納額は約32億8千万円

税金や使用料などで21年度までに納められなかった金額は、約32億8千万円まで膨らんでいます。今後も納期内に納付した人や納税義務の公平性を保つために、差し押さえや法的措置などの厳しい措置を行います。

平成21年度までの主な滞納額	
町民税	1億5,517万円
固定資産税	2億3,335万円
軽自動車税	3,460万円
国民健康保険税	2億3,480万円
保育料	7,507万円
住宅等使用料	2億1,990万円
住宅管理料	1,145万円
学校給食費	3,645万円
住宅新築資金等貸付金	19億9,619万円
水道使用料	2億9,027万円

05 地方債(普通会計)

町の借金残高は約227億円

年度を越えて元利を償還する借入金を「地方債」といいます。21年度末の残高は20年度から約5億6千万円解消し、約227億円となりました。福智町の場合、償還額の一部が普通交付税措置されるものが多く、試算では約65%が見込まれますが、財政負担を圧迫しています。今後も合併効果を表しながら借金を減少させないといけません。



04 特別会計

国保と診療所が大幅な赤字を抱える

特定の事業を行うために一般会計と分けて設置される特別会計では、国保が約7億4千万円、診療所が約2億5千万円の赤字を出し、厳しい状況に直面しています。

区分	歳入	歳入歳出差引
老人保健特別会計	1,022万円	347万円
後期高齢者医療特別会計	2億4,743万円	328万円
国民健康保険特別会計	26億1,356万円	-7億3,951万円
町立診療所事業特別会計	7億2,266万円	-2億4,978万円
住宅新築資金等貸与事業特別会計	3億9,866万円	1,394万円
水道事業特別会計(収益的事業)	5億7,452万円	3,190万円
田川郡町村公平委員会	233万円	33万円

03 健全化判断比率・資金不足比率

早期健全化基準はクリア

健全化判断比率	福智町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率 *1	(△) 9.25%	13.86%	20.00%
連結実質赤字比率 *2	(△) 1.87%	18.86%	40.00%
実質公債費比率 *3	14.7%	25.0%	35.0%
将来負担比率 *4	(△) 41.4%	350.0%	—

健全化判断比率	福智町	早期健全化基準	備考
資金不足比率 *5	(△) 84.3%	20.0%	水道企業会計での算定

* 赤字が生じない場合は「—」で表示、参考値の黒字比率を(△)内に掲載。
 *1 普通会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率
 *2 すべての会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率
 *3 借金の返済額等の大きさを資金繰りの危険度をみる比率
 *4 町が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度をみる比率
 *5 企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度をみる比率

決算概要 財政硬直からの脱却

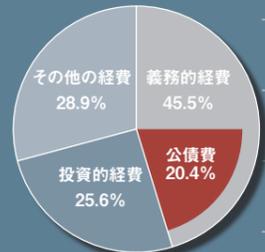
滞納解消・歳出の無駄を徹底的に省く

歳出を前年度と比較すると約32億円の大幅な増額となっています。その要因は、繰上償還を含む公債費が7億5千万円の増額・学校給食センター建設を含む普通建設事業費が20億1千万円の増額・昨年7月の集中豪雨に伴う災害復旧事業費が3億5千万円増額したことによるものです。今後の財政運営については、自主財源の根幹をなす税や使用料、貸付資金などの徴収率の向上。さらに、歳出の無駄を徹底的に省くとともに、合併特例事業等を効率的かつ有効的に活用し、中期財政計画をもとにして財政の硬直化からの脱却を図ることが早急な課題となっています。

02 一般会計歳出

歳出額は約161億1千万円

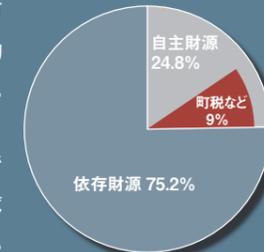
前年度に町が支出した一般会計の総額は161億1千万円。これを性質別に見ると、人件費・扶助費・公債費の「義務的経費」が約73億3千万円で全体の45.5%、そのうち借金を返済する公債費は約32億8千万円で全体の20.4%となっています。また「投資的経費」は約41億4千万円で全体の25.6%、そのうち普通建設事業費が昨年より20億1千万円増額の約33億7千万円で全体の20.9%を占めています。



01 一般会計歳入

歳入額は約170億5千万円

町に入った昨年の一般会計の歳入は170億5千万円でした。内訳は、国や県に頼った依存財源が75.2%、町でまかなう自主財源が24.8%です。しかし自主財源には全体の4.6%にあたる基金の取り崩し(約7億9千万円)や前年度からの繰越金(約7億6千万円)が含まれています。町税などの収入は9%で、全体の1割しかありません。依存財源の中で最も多い割合は地方交付税で、歳入全体の35.3%を占めています。



決算

平成21年度 まちの財政通信簿

平成21年度決算がまとまりました。歳出決算額は約161億円で、実質収支は6億9千万円の黒字でした。前年度の町のお金と財産の現状、今後の課題をみなさんの目でチェックしていきましょう。

09 財政力指数

全国最低水準の財政力

基準財政収入額を基準財政需要額で割った過去3年間の平均値が「財政力指数」です。指数が高いほど自力があり、指数が低いほど国への依存が強いといえます。町の財政力指数は20年度類似団体の最小値と同程度。全国最低の水準です。今後、収納率の向上や地場産業の活性化、企業誘致など財政基盤の強化が求められます。



08 経常収支比率

昨年度より2.6%減少も依然危険水準

人件費など毎年必ず必要とする経費を比較的安定している収入で割った指数が「経常収支比率」です。「財政構造が弾力性を失い硬直化している」とされる危険ラインが現在の福智町。普通会計の経常収支比率は97.4%となっています。20年度より2.6%減少しましたが、ゆとりはなく、今後も人件費を含む経常経費削減の徹底を図ります。



07 基金(普通会計)

町の貯金残高は約131億円

法律や条例に基づいて設置される「基金」は、特定の目的のために活用できます。普通会計では24の基金があり、21年度末の残高は約130億6千万円です。21年度は借金の返済のために繰り上げ償還を実施。減債基金を約6億3千万円取り崩しましたが、その他の基金もあり、昨年と比べ2億円の減少でとどまっています。

